

# PHD LETTER

## 118

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

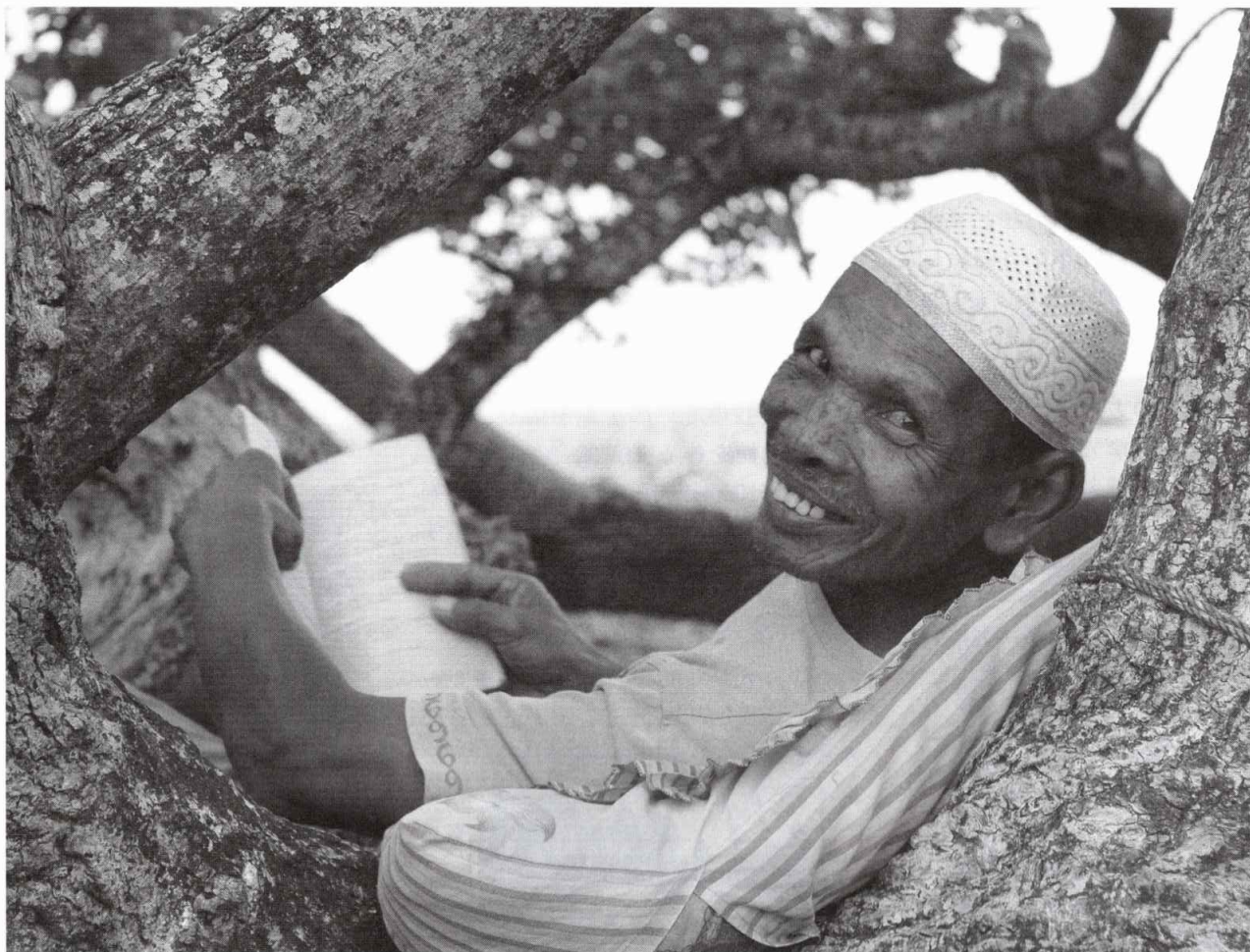
2011.12

- 夏のスタディツアー報告  
「参加して、考えたこと」
- 研修生レポート  
「これまでの研修で、いちばん勉強になったことは？」
- パッサンさんインタビュー  
「ガハテ村に嫁いで～パッサンさんが語る想い」
- 30周年行事 開催

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをさきあげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：公益財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄  
編集人：藤野 達也  
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3  
元町アーバンライフ202  
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867  
E-mail: info@phd-kobe.org  
URL: http://www.phd-kobe.org  
定価：100円  
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会  
01110-6-29688

PHD協会は特定公益増進法人の認定を受けています。



インドネシア、西スマトラ州 バシルバルー村 撮影：FUJINO T.

浜辺の木の上に枕をもちだし  
本を読むお父さん。  
「ここは風通しがよくて涼しいからね」  
と、にっこり。

東西南北  
問題解決  
取組日記

井植文化賞を  
いただきました

10月1日、第35回井植文化賞を国際交流部門でいただくことができました。30年にわたる活動を通して海外の青年の育成とともに日本国内の青年への働きかけが評価されました。30周年の節目の年の受賞、周年行事会場で表彰状をご披露しました。ありがとうございました。

「いい会だったね」、  
30周年行事開催

1981年6月、岩村昇先生の提唱で始まったPHDの活動。今年で30周年を迎えました。これまでに海外10カ国から招いた研修生は104人、短期生80人、ワークショップの講師や民族舞踊などで迎えた方々は85人。また95年から開始した国内研修生は17人になります。

神戸の元町に事務所をおき、兵庫県を中心に活動してきましたが、全国各地に加えて海外の方々に支えられてやってきました。研修先は南は沖縄、石垣島から、北は宮城県にまで広がりました。

10月22日に、神戸で30周年記念行事を行いました。詳しくは別ページでご報告をいたしますが、250人の方にお集りいただき、30年をふりかえり、これからのPHDを考える機会となりました。

公益財団法人に

2008年に公益法人制度改正があり、PHD協会はこの公益財団法人への移行の手続きをすすめてきました。この9月の認定委員会を経て、兵庫県より認定を受け、11月1日に登記が完了しました。これに伴い、理事会、評議員会の構成も変わりました。理事は今井鎮雄（理事長）、梶山卓司、米谷收、田中敬一、橋本一豊、松田高明、安平和彦。監事に田畠耕一、秦正雄。評議員は寒者恵、渋谷富喜男、杉原一三、大工原則子、水野雄二、向井菊美の各氏。以上の体制で11月から運営されます。

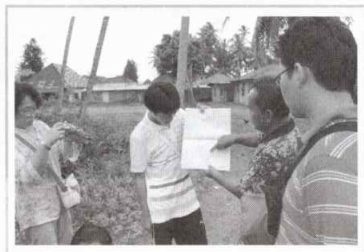
また、公益財団法人は、特定公益増進法人として寄附に対する所得控除の扱いがあります。ご寄附に対する領収書は、確定申告にお使いいただけます。詳しくは最終ページでご案内しますのでご覧ください。

2度目のスマトラ支援は  
「ふれあいセンター」建設

2009年9月にインドネシア、西スマトラ州を襲った地震で、PHDの研修生たちの住む漁村パシルバルーも被害をうけました。

状況を知った方々から、寄せられたご寄附を、現地の研修生と相談をし、幼稚園、モスク等の補修に充てさせていただいたことは、会報115号でお知らせしました。その後、その実績をうけて、神戸市社会福祉協議会、CODE海外災害援助市民センター、日本キリスト教団兵庫教区からご寄附があり、その用途を今年3月にこの村の村長になった研修生アリさん（87年度）と相談してきました。当初提案のあった避難所は、日常的には役に立ちにくく、いざという際にも村から遠すぎてその効果に疑問があったため見送り、研修生ハスマヤニさん（92年度）の土地を借り、村内に多目的館を作ることで合意しました。防災教育にとどまらず、母子保健、婦人会、保育の活動などに使うものです。神戸市社協の提案で「ふれあいセンター～Sama Sama Hati」と名づけられます。

完成は2012年年明けの予定です。みつつの組織とそこにご寄附をしてくださいました皆さんにお礼申し上げます。



ふれあいセンター建設予定地で建物の図面をツアー参加者に説明するアリさん

今年の夏は海外3カ所に出張

当初3カ所で予定をしていた夏のスタディツアー。事情によりミャンマー（ビルマ）が中止になってしまいましたが、ネパール、インドネシアで行いました。

ツアーはなくなったもののミャンマーには坂西職員を送り、帰国研修生のその後を訪ね、次年度研修生の面接も行いました。

ネパールへは今年も生協総合研究所からのご支援を得て、コープこうべの職員小西陽一さんを派遣し、ポカラとカブレの村で協同組合の説明ができました。



新候補者全員にまずはPHDの説明を（ネパール）

ネパールとインドネシアでも次年度研修生の面接を行いました。3カ国での選考をつきあわせた結果、2012年度は、ネパールのガハテ村からアッチャンマさんとランマヤさん、インドネシア、タラダマ村からアドリザルさんを選ぶことにしました。ネパールの二人はビショさん（09年度）、ミンクマリさん（10年度）、パッサンさん（11年度）に続くガハテ村から。アドリザルさんは、インドラさん（10年度）に続いてのタラダマ村からの招へいとなります。



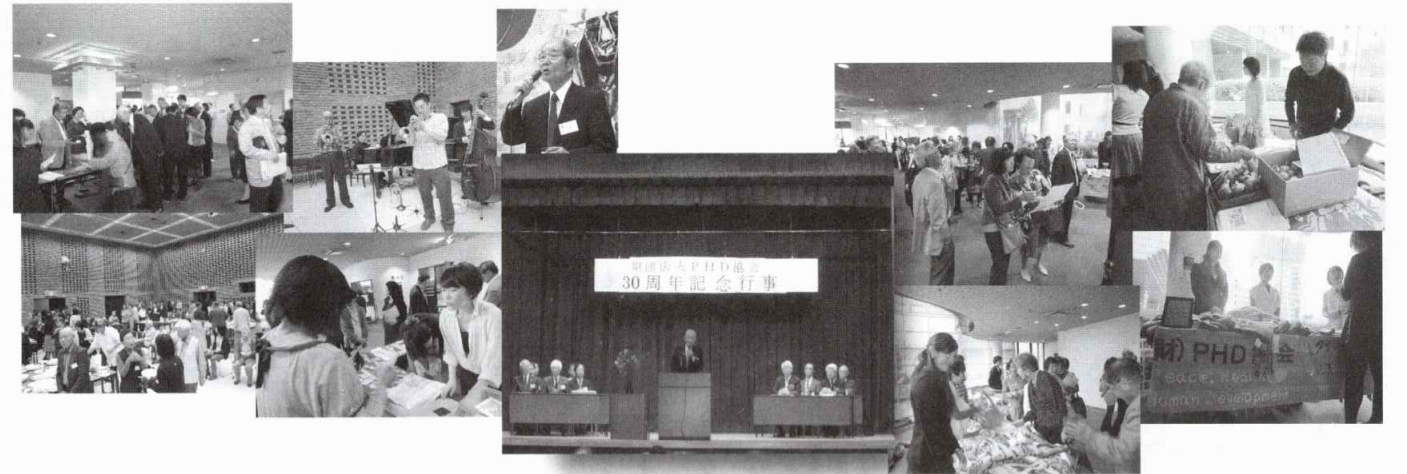
次年度の研修生選考の相談をする帰国研修生（インドネシア）

29期生、宮城県に

東日本大震災に対し、当会は直接の支援活動をしてきませんでした。今年の東日本研修旅行の折りに、宮城県まで足を延ばし、29期生がお手伝いとともに、被災地の現状、また支援活動から学ぶことになりました。今回は仙台YMCA、山元町社会福祉協議会のご協力をいただきます。

総主事代行 藤野達也

30周年記念行事 開催！ 10月22日 コープこうべ生活文化センターホール



1981年の設立以来、10年ごとに周年行事を行ってきました。10周年は91年11月3日に神戸市の西山記念会館で。20周年は01年10月6、7日、神戸市シルバーカレッジで。そして30周年は11月22日、神戸市東灘区のコープこうべ生活文化センターで行いました。雲行きがあやしい空でしたが、開場まではなんとかもち、250人の参加をいただきました。

今井理事長挨拶に続いて、井戸敏三兵庫県知事、矢田立郎神戸市長、本田英一コープこうべ組合長理事、宮本一国際ロータリー第2680地区パストガバナーからの祝辞をいただきました。29期研修生紹介の後は昨年暮れからの海外出張で撮ってきた映像による帰国研修生取材の抜粋、そして88年度研修生アジャンタさん（スリランカ）の話、日本各地でPHDを支えていただいている方々、内山賢次さん（北九州市）、米田祝子さん（松江市）、大森昌也さん（兵庫県和田山町）、丸山悦司さん（加古川市）、友藤富士子さん（加東市連合

婦人会）、小嶋英毅さん（篠山ナマステ会）、吉田宜子さん（国内研修生）による「PHDとつながる意味」と題した討論会を第一部に配しました。ここでは十分な時間がなかったのですが、それぞれがPHDとつながることになったきっかけと、それが続いているわけをお話いただきました。



PHDの活動が行政ともうまく連携し、各地の様々な形態の団体や地域とつながっていること、家庭の中でも女性の立場でのかわり方や、仕事を引退した中高年世代男性の参加がもっと必要なことなどに話が及びました。

一時間の休憩をはさんでの第二部は、三浦昌彦四重奏団による演奏で幕あけ。用意したアジア料理の品々を前に竹本

成徳兵庫県ユニセフ協会長のご発声で乾杯。しばらく食事を楽しみ、懇談の後、再び三浦楽団の演奏、研修生パッサンさん、ラメシュさんによる歌、聖和大学卒業生によるネパール舞踊と続きました。



後半は会場の皆さんにマイクをまわし、それぞれとPHDのつながりをお話いただくうちにあっという間に2時間がすぎました。

開催にあたっては、神戸市シルバーカレッジの学生さん、関西国際大学、神戸学院大学、神戸大学の学生さんたちも裏方として動いてくれました。参加できないからとお祝いを送って下さった方々も多くおられました。今回もいろいろな形でお支えいただきありがとうございました。



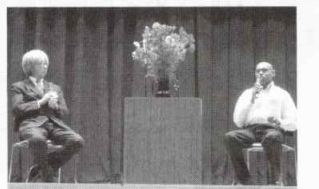
七転び八起きでした。  
88年度研修生  
アジャンタさん

「帰ってからは農業協同組合を作りました。まず耕運機を買って有機農業を始めました。でも問題ができました。スリランカでは内戦があり、命を狙われたりしたので2年ほど隠れていました。

組合がうまくいきすぎて目をつけられたようです。七転び八起きでした。その時に思い出したのは草地さん（元職員）の素晴らしい言葉でした。「この国を良くするには10年、20年かかる。我慢が大事」と。これから私は学校を作りたいです。もう2度と戦争にならないように、子どものときから教育していきたいです。

私は帰った104人の研修生の内の一

人にしか過ぎませんが、皆さんに伝えたいことがあります。PHDの研修の素晴らしさはいつも心に残っています。研修のシステムが素晴らしかった。一緒に生活し、先生の考えや心に触れることができました。ありがとうございます」





# 夏のスタディツアー報告 ~参加して、考えたこと

## ネパール

7月28日~8月6日

学校を出た若い人たちが収入を求めて村を出ていくのは、自然の成り行きで仕方のないことなのだが、あとに残された老人だけで、あの厳しい段々畑での農業が果たして成り立つのか、いや、農業どころか老人だけの生活自身が成り立つのか、年金も社会福祉も何もないネパールの山村に取り残された老人の姿を想像するだけで、これでいいのかという自責の念が頭をよぎる。

だからこそ、何としてもオレンジをガハテ村の特産にまで育てて、若者が村に残り、特産オレンジの収入で豊かな暮らしができるよう、篠山ナマステ

会としてどんなサポートが出来るのか考えてみたい。

(上田和夫・篠山ナマステ会)



組合のメンバーと参加者のみなさん

今回のツアーではボカラのラダさんの家、ガハテ村のギャンさんの自宅兼組合事務所、SSSの集会所と3回講義する機会に恵まれたのですが、それらを終え見えてきた課題があります。ひとつは共同栽培について換金作物の相場が劇的に変動したときの対応策です。(中略)、私の提案はコープこうべでの研修で組織運営を学ぶマネジメント

の研修の実施です。数年後研修生と同世代の同じ価値観を持った若者達が前述の壁を打破していくことを期待しています。

(小西陽一・生活協同組合コープこうべ)



協同組合について自作のネパール語の資料を用いて説明をする小西さん



## インドネシア

8月27日~9月4日



ダスウィルさん(99年度)がリーダーを務めるグループで苗床をつくっています

私がこのインドネシアツアーに参加した理由は、インドネシアという国を知りたかった、スマトラ沖地震で被害にあった地域が今どんな現状なのかという気持ちでした。

パシルバルー村では、スマトラ沖地震で被害を受けたところなので、村の

あちこちに災害の爪痕が残っていました。建物にひびが入っていたり、壊れた建物がそのままであったり、まだまだ傷が残っていたことに少し驚きました。村には、津波が来た時に避難場所までの看板がありました、まだまだ津波や地震などの災害に対する対策がされていないなと思いました。



「津波が来たら、こちらに避難してください」と書かれた看板

私は、このツアーを通して改めて家族の温かさを体験しました。パシルバルー村でも、タベ村でも、家族をとっても大切にしている姿を見て、心が温かくなりました。また、子供が多いため村全体で自分の子供も、他人の子供も

面倒を見ている姿を見て、いい光景だなどと思いました。

日本も、こんな家族を大切にすると人は増えたら、もっと暮らしやすい生活になるんじゃないかと思えます。このツアーでは、いろんな体験や改めて考え直されたことが、たくさんあったので、これから先いろんな場面で生かしていきたいなと思えます。

(藤原麗生・大学生)



エリさん(03年度)のもとでミシンを修行中のロザさん(09年度)

# ミャンマー(ビルマ) 帰国研修生 報告

## タダインシェ村

ティダさん(07年度)



紙芝居を使って啓発活動を行います

### ◆安全な水を飲んで欲しい!

Thirst for aid(渇きへの援助)というプログラムをYMCAと協働中。目的はきれいな水の供給で、水をろ過するポットを普及させる活動を行う。普及のために村をまわり紙芝居を使って話をします。その際に水俣のことなども話をすると皆びっくりして購入を考えてくれるそう。子どもがいる家庭には安価な価格で販売している。

また帰国直後からボランティアで血圧を測り、血圧がとても高い人には病院に行くように促し、少し高めの人には、味付けを薄くする、運動するなどのアドバイスをする活動も行う。同時に栄養、健康(マラリアなど)をお母さんたちに啓発もしている。



血圧を測り、保健活動を行うティダさん



ゾウウィンさん(04年度)

### ◆お寺に寄進します

現在は父親と二人で暮らし、マンゴー、パパイヤ、バナナを栽培。お寺への寄進なども熱心に行う。



スーさん(06年度)

### ◆村に図書館を作りたい!

学校で0年生(6才)を担当し、5教科全てを教える。村ではティダさんと一緒にYMCAの幼稚園やThirst for aidの活動を熱心に行う。夢は村に図書館を作ることによって本や資金を少しずつ集めている。

トウントンさん(94年度)



トウントンさんとHIV/AIDSプロジェクトのメンバー

### ◆研修生のまとめ役

ビルマの研修生のリーダー的存在。研修生の結束を強めようと月一回のミーティングを開催。ミーティングでは日本での学びをどのように広げるか、また村のためにどんな活動ができるかを話し合う。近く研修生みんなで具体的な活動を始めたいと語る。

またパウンドーウー僧院で関わっているHIV/AIDSプロジェクトでパインジー地域のボランティアリーダーを引き続き勤める。



ケンターウェさん(03年度)

### ◆薬科大学で働いています

大学で保健の先生の秘書として働く。保健の授業の手伝いなども行う。また村では日本で学んだ歯磨きのことなどを教えている。その活動がまだ小規模なので広げたいと語る。



テーさん(05年度)

### ◆有機農業をがんばる2児のパパ

有機農業の実践中。愛媛の泉さんから学んだアミノ酸や天恵緑汁などを実践。また疎植により苗が少なくてもすむようになり、村の内外に広めている。現在、お連れ合いさんが二人目を妊娠中。



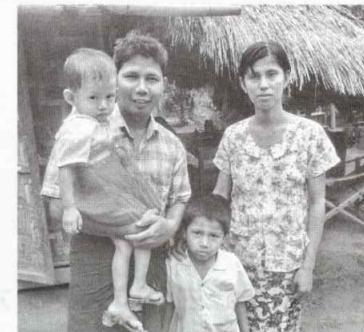
ムームーさん(93年度)

### ◆YMCAを退職し、第二の人生へ

21年働いたYMCAを7月いっぱい退職し、現在は親戚の居るナウンチョウ村で生活。YMCAで培った保健衛生活動は続けながら、得意のミャンマー料理のモヒンガーのお店を開店する予定。

## イエボ村

スウェウィンさん(02年度)  
カインソーさん(96年度)



2人の息子、元気です

### ◆みんなのための仲買人

有機農業の合間に村のみんなのためにお米の販売の手伝いをする。プエダアと呼ばれる仲買人として村の人のお米を町の精米所に販売している。スウェウィンさんの仲介により村の人は安定した価格でかついくらでも販売できるようになっている。



- 7月 5日 阪神シニアカレッジ講義「NGOの国際協力」
- 7月 6日 神戸大学国際文化学部講義
- 7月13日 加古川老人大学院「国際協力団体の活動について」
- 7月24日 加東市連合婦人会研修生報告会
- 7月29日~8月6日 ネパール・スタディツアー
- 7月30日 しゃわせの村夏祭りバザー
- 8月8日、9日 多文化共生のための国際理解・開発教育セミナー
- 8月26日~9月4日 インドネシア・スタディツアー

- 9月15日 名古屋大須ロータリークラブ
- 9月24日 コープこうべ協同購入センター須磨 ネパール報告
- 9月29日 国際ソロプチミスト高山交流会、PHDひだ友の会交流会
- 9月30日 甲北高校講演「共に生きるために」
- 10月3日、4日、6日 関西学院大学高等部 秋季宗教運動
- 10月8日 神戸市シルバーカレッジ学園祭
- 10月22日 PHD協会30周年記念行事

## あらためて 特定公益増進法人 に。

11月1日からPHD協会は、公益財団法人となりました。公益財団法人は特定公益増進法人の資格ももつため、当会に対するご寄附は、所得控除の扱いを受けることができます。11月1日以降、当会が発行する領収書を確定申告の際にお持ちいただければ、免税の扱いがあります。

1. 当会は兵庫県知事から「特定公益増進法人等」の認定を得ておりますので、当会への寄附金については次のような税務上の特典があります。
  2. 所得税の確定申告時又は法人税申告時に当協会の発行する寄附金領収書、及び「特定公益増進法人等」であることの証明書を添付して申告すれば所得税から控除が受けられます。
- (ア) 寄附者が個人の場合(旧所得税法施行令第217条第1項第3号(三))  
寄附金の合計額(総所得金額の40%を限度とする)-2,000円  
=寄附金控除額(所得金額から控除できる額)
- (イ) 寄附金が法人の場合(旧法人税法施行令第77条第1項第3号(三))  
次の(A)と(B)のどちらか低い額が、損金算入額になります。  
(A)  $\{(\text{資本金} \times 2.5 / 1000) + (\text{所得額} \times 5.0 / 100)\} \times 1 / 2$   
(B) 寄附金の合計額
- 領収書および「特定公益増進法人等」であることの証明書は大切に保管し、  
税務申告のときにご利用下さい。

## PHD NEWS

### ◆会費・ご寄附寄託状況

2011年 6月	51件	¥ 563,351
7月	345件	¥3,072,583
8月	191件	¥1,354,336
9月	188件	¥4,578,400
	132件	¥2,454,643

上記の通り、通常のご寄附に加え、30周年記念のご寄附を頂きました。心より感謝申し上げます。

### ◆今年も連合、自動車総連よりご寄附いただきました

今年も日本労働組合総連合会「愛のキャンパ」と自動車総連「福祉キャンパ特別寄贈」をいただくことができました。第29期研修生の研修費用に充てさせていただきます。ありがとうございます。

### ◆公益財団法人に

2ページでもご紹介しましたように11月1日をもって、公益財団法人PHD協会となりました。しばらく振替用紙、封筒、印刷物など、旧名称のものも使

いますが、ご容赦願います。

### ◆書き損じハガキ、集めています

年賀状の用意の季節です。もし書き損じがでてしまったら、PHDにおまわしください。

### ◆A4裏紙ありませんか

省資源と節約を兼ね、事務所では裏紙を活用しています。皆さまのまわりにありましたら、元町に来られるおついでにお持ちいただけませんかでしょうか。

### ◆帰国研修生の活動に触れるネパール・スタディツアー

日程：2012年3月23日深夜～4月1日  
参加費：既会員 215,000円  
新規会員220,000円  
+会費 5,000円  
事前説明会・勉強会：2012年3月3日

### ◆西日本研修旅行のご案内

1月中旬、約2週間、研修生が西日本各地を訪ねます。各地で学ばせていただくとともに、交流の会ももちます。

宮崎～鹿児島～熊本～福岡～山口  
～広島～岡山

## 〇月×日のPHD協会

— 30周年記念行事当日のできごと

国内研修生 吉田 会場へ荷物移動多数。慎重を期したにもかかわらずネパールの少女の大パネルを行きは駐車場、帰りは控室に置きざりに。二度、汗。

国内研修生 岸本 第一部の司会を担当。緊張しまくりで、何を喋ったか本人記憶なし。終了後、良くできたねとお褒めの言葉をもらい、安堵の汗。

職員 井上 第二部のネパール舞踊の踊り手に欠員発生のため、急遽舞台へ。ネパール滞在歴1年半で身につけた舞いを2曲披露する。気持ちいい汗。

職員 川原 第二部の進行担当。後半に各地からお集りの皆さんからお話を聞く時間。会場内を右に左に、縦に横に、時に会場外に、走りまわる。大汗。

職員 坂西 会場に生後4カ月の娘も来場。第二部でたくさんの皆さんに抱っこされ、次から次への人気者。目を離すとどこへ？あわてて探しに。小汗。

職員 藤野 幕明け前の舞台に来賓、役員を誘導。いきなりの手違いで壇上は真暗。手探りで進む。PHDらしいと先頭の県知事に慰められる。冷汗。

(関西弁が強く出る順)

制作協力：菅原宗晋 増本一郎 児嶋寛章

—再生紙を使用しています。

## 第30期研修生 ホストファミリー募集！



アッチャンマ・ラマ  
ネパール・18歳・男性



ランマヤ・タマン  
ネパール・20歳・女性



アドリザル  
インドネシア・35歳・男性

期間 2012年4月中旬～2013年3月初旬  
経費 当会の規定により、食費と滞在費をお支払いいたします。  
その他、交通費、医療費などは基本的に当会が負担します。  
応募条件 当会事務所から公共の交通機関で1時間以内で通える範囲。